



プレスリリース

平成 17 年 1 月 12 日

関係者各位

大和インベスター・リレーションズ株式会社
〒100-8289 東京都千代田区丸の内 1-8-1
Tel 03-3283-7000(代表) Fax 03-3283-7077

アナリスト・ファンドマネージャー99人のアンケート

「社会的責任投資（SRI）の日本企業への影響」の調査結果から

● 社会的責任投資（SRI）の認知度 95%に上昇

ファンドマネージャー（100%）、バイサイドアナリスト（100%）、セルサイドアナリスト（90%）の順前回調査（2004年4月）の92.6%から2.3ポイント増加。

● 企業の社会的責任（CSR）は94%に認知度向上

バイサイドアナリスト（100%）、ファンドマネージャー（94%）、セルサイドアナリスト（88%）の順前回調査（2004年4月）の90.1%から3.8ポイント増加。

● 「SRIがレポート作成や投資銘柄選択に影響する」は全体の35%に上昇

ファンドマネージャー（38%）、セルサイドアナリスト（29%）、バイサイドアナリスト（28%）の順前回調査（2004年4月）の21.0%から14.3ポイント増加。

企業の社会的責任（CSR:Corporate Social Responsibility）への取組みを投資基準にする社会的責任投資（SRI:Socially Responsible Investment）が注目されています。SRIファンドは、2004年10月28日現在、日本国内に14種類あり、純資産額は約1,346億円です。先行する米国では総資産運用残高が2001年末で約300兆円に達しており、日本でも大手投信会社が相次いでSRIファンドを設定するなど今後の成長が見込まれています。

大和証券グループのIR（投資家向け広報）コンサルティング会社である大和インベスター・リレーションズ株式会社（社長・宮田長吉）は、「社会的責任投資（SRI）」の日本企業への影響について、2004年12月10日～12月20日、日本国内の主要な日系・外資系証券会社調査部門及び機関投資家99名（ファンドマネージャー16名、バイサイドアナリスト25名、セルサイドアナリスト42名、その他16名）からアンケートの回答を得ました。なお、前回と同じ質問項目に一部追加してアンケート調査を実施しました。前回（2004年4月）に続いて4回目の調査です。

今回の調査概要は以下のとおりです。

- SRIについては、「よく知っている」「知っている」を合計すると94.9%。
- CSRについては「よく知っている」「知っている」を合計すると93.9%となり、前回の90.1%から3.8ポイント認知度が向上。
- SRIの中で一番関心の高い項目は、前回と変わらずガバナンス、アカウンタビリティ（法令順守、情報開示等）。
- SRIの考え方の中で、一番分かりにくい、なじみにくいのは、前回と同じく「雇用や労働問題、人権問題を取り上げている」。

- ・SRIが及ぼす、レポート作成や投資銘柄選択への影響について、全体の 35.3%が「影響している」と答えており、前回調査(2004年4月)の 21.0%から 14.3ポイント増加した。ファンドマネージャーの 37.5%、セルサイドアナリストは 28.6%、バイサイドアナリストの 28.0%が影響ありと回答。
- ・SRIインデックスの認知度が上昇。全体でトップの「DJSI」の認知度が前回 16.5%から 27.8%に。
- ・SRIの判断材料として重視するのは「取材、インタビュー」が 53.4%、「環境報告書」38.6%、「インターネットホームページ」30.7%、新しく項目に加えた「CSR報告書」が 28.4%で登場。
- ・日本でのSRIについて、全体の 67.7%が普及すると回答。前回の 60.5%から 7.2ポイント上昇。普及しないは 31.3%で若干前回から低下。

大和 IR は、資本市場に幅広い専門分野を持つ大和証券グループにあつて、上場・未上場企業の投資家向け広報(IR)に優れたノウハウを持ち、専門性の高いプロフェッショナルなサービスで実績を築き、コーポレート・ストーリーの構築からIR活動のアドバイザーまで、IRの幅広いサポートを行なっています。

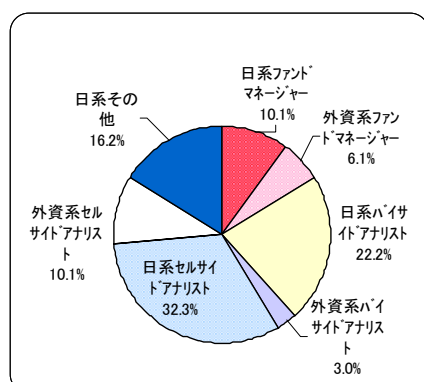
大和 IR では、企業のディスクロージャー活動を今後とも支援してまいります。

以 上

【お問合せ先】 大和インベスター・リレーションズ株式会社
理事業務推進担当・米山徹幸
業務推進部次長・石橋卓磨
T e l 03-3283-7000 F a x 03-3283-7077

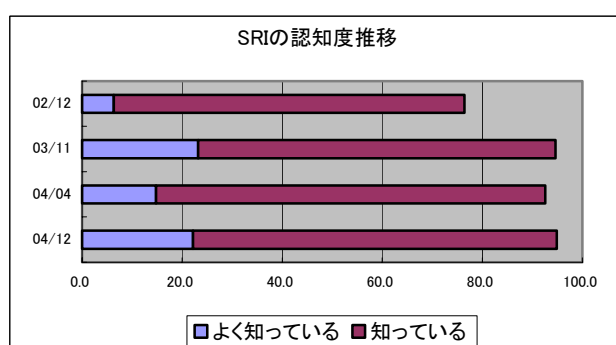
調査期間:平成 16 年 12 月 10 日～12 月 20 日

有効回答者数:99 名(ファンドマネージャー16 名、バイサイドアナリスト 25 名、セルサイドアナリスト 42 名、その他 16 名)



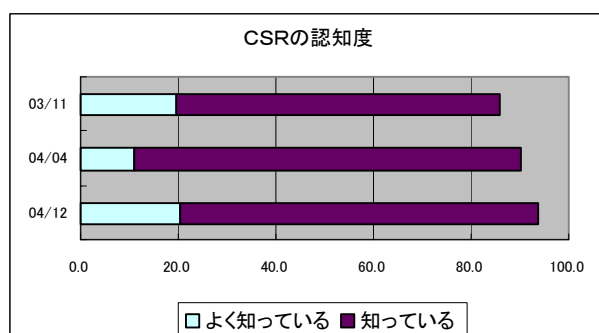
1 社会的責任投資(SRI)の認知度

- ① SRI の認知度について質問したところ、全体で「よく知っている」、「知っている」を合わせて 94.9%と、前回と比較して 2.3 ポイント上昇、ほぼ 100%に近づいた。
- ② 職種別では、ファンドマネージャーが「よく知っている」(43.8%)、「知っている」(56.2%)で認知度 100%、バイサイドアナリストは「よく知っている」(20.0%)、「知っている」(80.0%)と同じく認知度 100%、セルサイドアナリストは「よく知っている」(14.3%)、「知っている」(76.2%)で認知度 90.5%となった。バイサイドとセルサイドでSRIに対する認知度に若干の差が出ている。

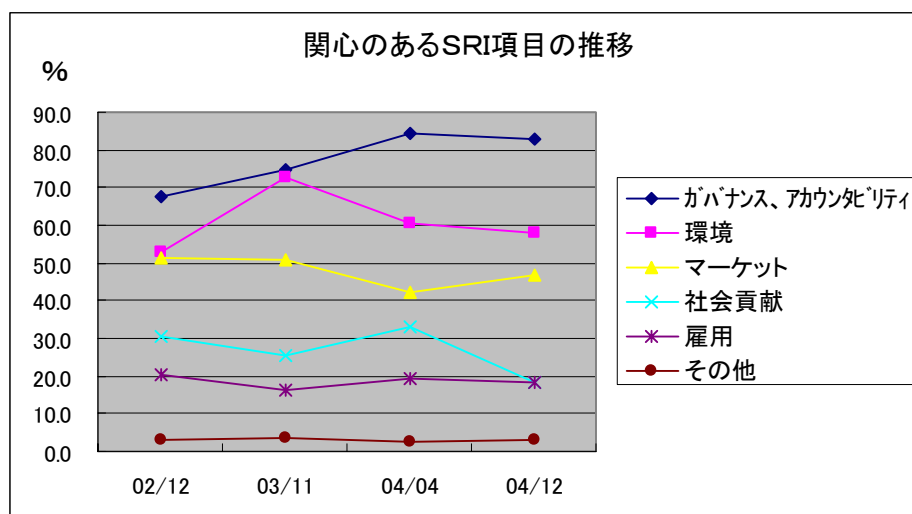


2 企業の社会的責任(CSR)の認知度

- ① CSR の認知度について質問したところ、全体で「よく知っている」(20.2%)、「知っている」(73.7%)を合わせて認知度 93.9%と、前回調査 90.1%を 3.8 ポイント上回り、関心の高さをうかがわせた。
- ② 職種別では、バイサイドアナリストが「よく知っている」(12.0%)、「知っている」(88.0%)の合計 100%、ファンドマネージャーが「よく知っている」(43.8%)、「知っている」(50.0%)の合計 93.8%、セルサイドアナリストは「よく知っている」(14.3%)、「知っている」(73.8%)の合計 88.1%となった。



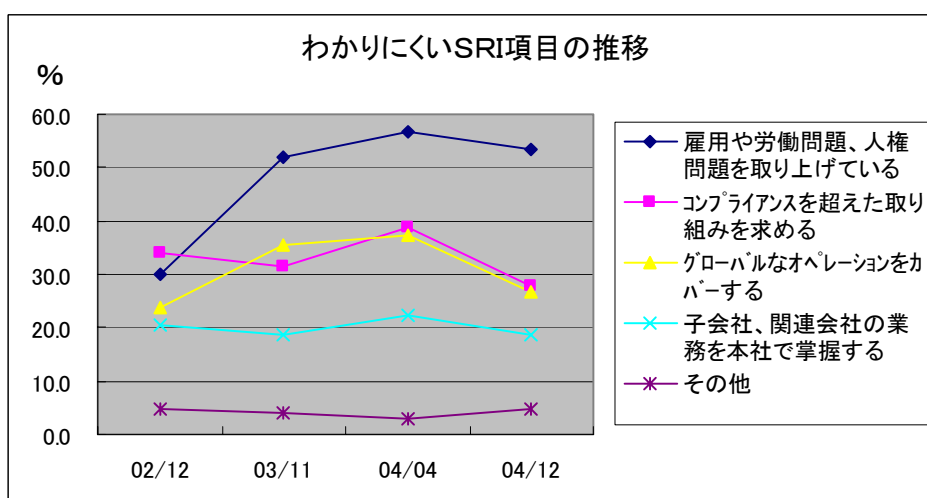
3 関心の高いSRI項目(複数回答)



代表的なSRIの5項目についてどれに関心があるかをたずねた。

全体で1位は「ガバナンス、アカウンタビリティ(法令順守、情報開示等)」が82.7%(前回比-1.9ポイント)と微減、2位は「環境(環境リスクの低減、環境汚染物質対策等)」が58.2%(同-2.1)と一服、3位は「マーケット(消費者対応、取引先対応、顧客満足、調達方針等)」が46.9%(同+4.6)、続いて「社会貢献(地域社会への貢献、NGOとの協働等)」18.4%(同-14.9)、「雇用(雇用関係、人材育成、基本的人権の保護等)」18.4%(同-0.8)となった。

4 SRIの考え方で、分かりにくい、なじみにくい項目

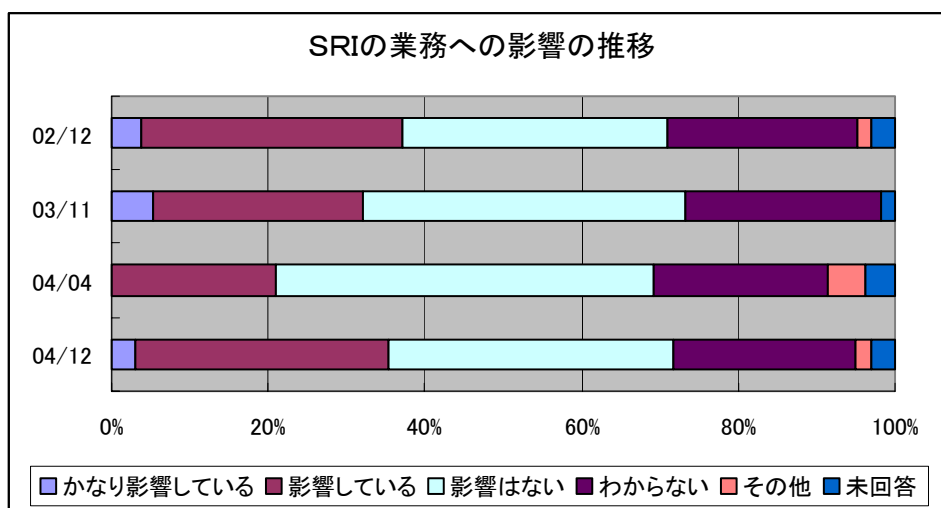


①全体で「雇用や労働問題、人権問題を取り上げている」が53.5%(前回比-3.2ポイント)が引き続き1位、2位は「コンプライアンスを超えた取り組みを求める」が27.9%(同-10.9)、僅差の3位が「グローバルなオペレーションをカバーする」26.7%(同-10.6)、以下「子会社・関連会社の業務を本社で掌握する」18.6%(同-3.8)、「その他」4.7%(同+1.7)となった。

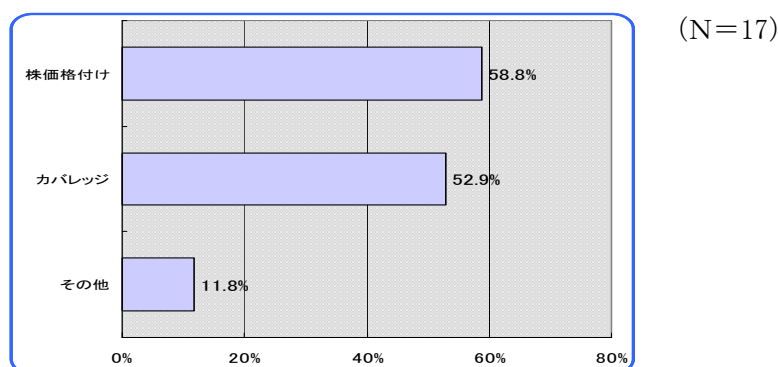
②「CSRの判断基準が大企業向けで、中小企業にそぐわない(日系アナリスト・小型株)」や「埋没コストとの折り合い(日系・その他)」とのコメントがあった。

5 SRIの考え方が、業務に影響を及ぼしているか

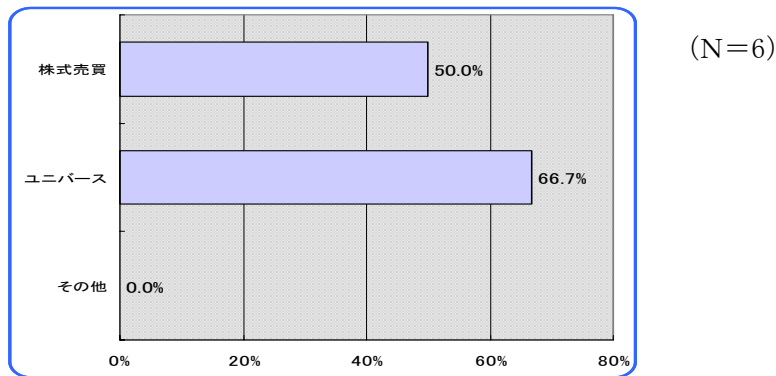
- ① 全体で、「かなり影響している」が前回 0.0%から 3.0%(前回比+3.0 ポイント)に、「影響している」は同 21.0%から 32.3%(同+11.3)、両方を合計した 35.3%(同+14.3)が業務になんらかの影響がでていると回答している。「影響はない」は同 48.1%から 36.4%に 11.7 ポイント減少した。
- ② 職種別では、ファンドマネージャーが「影響している」37.5%、セルサイドアナリストは「かなり影響している」4.8%、「影響している」23.8%の合計 28.6%、バイサイドアナリストは「影響している」28.0%となっている。



- 6 5で影響が出ていると回答したアナリスト17名が、具体的な影響を3つの項目の中から選択(複数回答)「株価格付け」58.8%(前回比+14.4 ポイント)、「カバレッジ」52.9%(同+19.6)、「その他」11.8%(同-21.5)。具体的には「著しい法令違反は推奨しないこともある(日系アナリスト)」、「銘柄選択(日系アナリスト・電機)」とのコメントがあった。

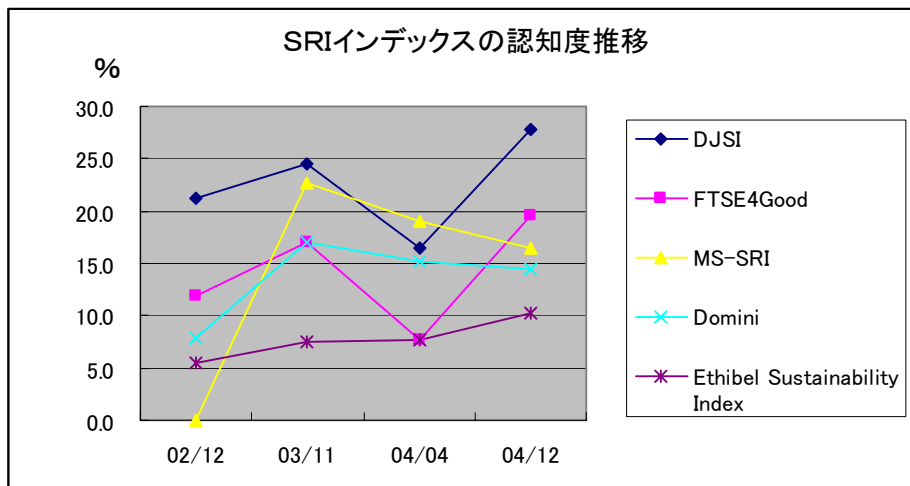


- 7 5で影響が出ていると回答したファンドマネージャー6名が、具体的な影響を3つの項目の中から選択(複数回答)「ユニバース(投資銘柄選択)」が 66.7%(前回比+16.7 ポイント)、「株式売買」が 50.0%(同±0)、「その他」0.0%(同±0)となっている。前回調査と比較すると、全般に影響が大きくなっている。



8 SRIインデックスの認知度(複数回答)

- ①認知度は上昇傾向。全体でトップは「DJSI」27.8% (前回比+11.3 ポイント)、2位は「FTSE4Good」19.6% (同+12.0)、続いて「MS-SRI」16.5% (同-2.5)、「Domini」14.4% (同-0.8)、「Ethibel Sustainability Index」10.3% (同+2.7)の順。
- ②職種別の認知度トップは、ファンドマネージャーが「FTSE4Good」43.8%、セルサイドアナリストが「DJSI」29.3%、バイサイドアナリストは「FTSE4Good」16.7%となった。



注)MS-SRIは2003年5月30日から計算されている。

9 注目しているSRIインデックス(複数回答)

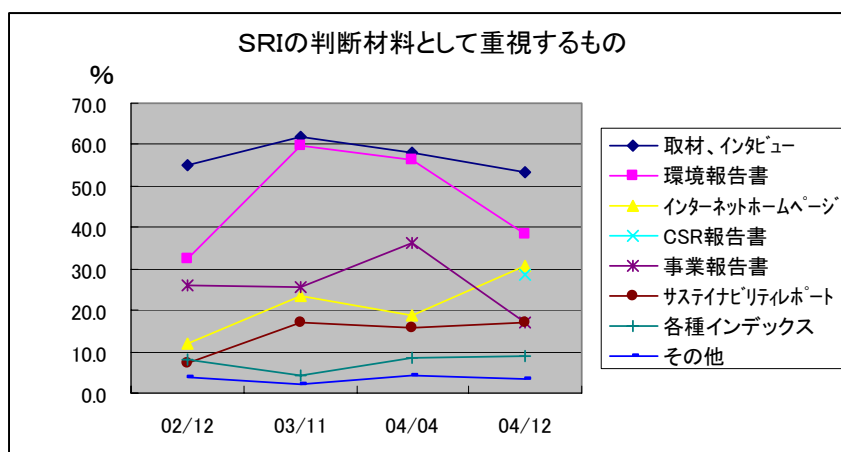
- ①全体で「わからない」が74.4% (前回比-10.4 ポイント)と圧倒的に多い。後は高い順に、「DJSI」12.2% (同+6.1)、「FTSE4Good」8.9% (同+8.9)、「MS-SRI」7.8% (同-2.8)、「Domini」6.7% (同-0.9)、「Ethibel Sustainability Index」1.1% (同-0.4)と続く。
- ②職種別でみると、「わからない」がセルサイドアナリスト、バイサイドアナリスト、ファンドマネージャーともそれぞれ82.5%、75.0%、60.0%でトップ。

10 インデックスの構成銘柄の認知度

- ①全体で「知らない」が76.8% (前回比-5.9 ポイント)と圧倒的に多い。「よく知っている」2.0% (同+2.0)、「知っている」19.2% (同+3.2)の合計21.2%と認知度は向上している。
- ②職種別でみると、「よく知っている」「知っている」の合計は、ファンドマネージャー37.5% (前回比+14.0 ポイント)、バイサイドアナリスト20.0% (同+4.2)、セルサイドアナリスト11.9% (同+4.0)

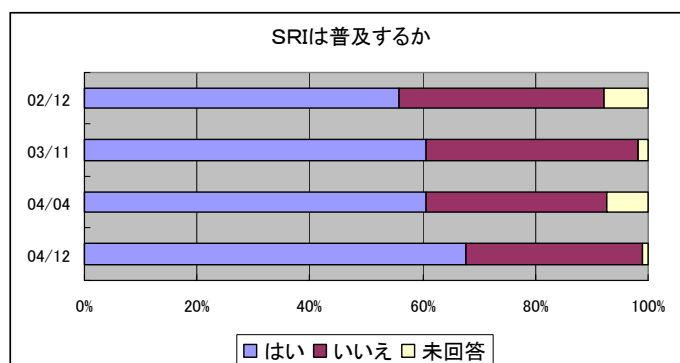
11 SRI の判断材料として重視するもの(複数回答)

- ①全体では、1位「取材、インタビュー」が 53.4% (前回比-4.6 ポイント)、2位「環境報告書」が 38.6% (同-17.9)、「インターネットホームページ」30.7%(同+11.9)、「CSR報告書」28.4%(新規項目)、「事業報告書」17.0%(同-19.2)、「サステナビリティレポート」17.0%(同+1.1)、「各種インデックス」9.1%(同+0.4)と、「インターネットホームページ」が「事業報告書」を逆転した。
- ②全職種で「取材、インタビュー」と「環境報告書」を重視しており、最近ポピュラーになった「CSR報告書」が「事業報告書」を上回っている。「サステナビリティレポート(持続可能性報告書)」は前回の15.9%から 17.0%と若干増加している。ファンドマネージャーでは、「インターネットホームページ」が「環境報告書」と並んで 2 位となっている。
- ③その他の判断材料として「重視していない。あたりまえのことであり、これ自体が企業の競争優位性につながるとはいえない(外資系ファンドマネージャー)」、「企業からの IR メール(外資系ファンドマネージャー)」とのコメントがあった。



12 日本で SRI が普及するかどうかについて質問

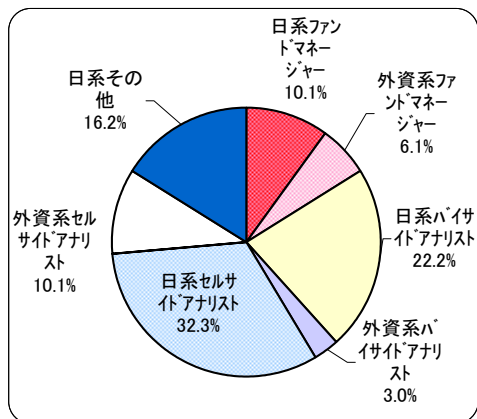
- ①全体では、「はい(普及する)」が 67.7% (前回比+7.2 ポイント)と上昇、「いいえ(普及しない)」が 31.3% (同-0.8)、「未回答」1.0% (同-6.4)となった。セルサイドアナリスト(73.8%)、バイサイドアナリスト(64.0%)、ファンドマネージャー(56.3%)とも「はい(普及する)」が過半数を上回っている。
- ②「はい(普及する)」の回答の中で、普及するが、「時間がかかる」、「表面的」、「限定的」との指摘もあったが、「普及が進んでいくのが自然の流れ」とのコメントがあった。
- ③「いいえ(普及しない)」との回答には、「企業としてあたりまえのこと(外資系ファンドマネージャー)」や「目先のリターン確保が死活問題(日系アナリスト・非耐久消費財)」、「名前先行(日系アナリスト・機械・SPE)」などのコメントが多いが、「啓蒙して普及させる必要のある考え方」とのコメントもあった。



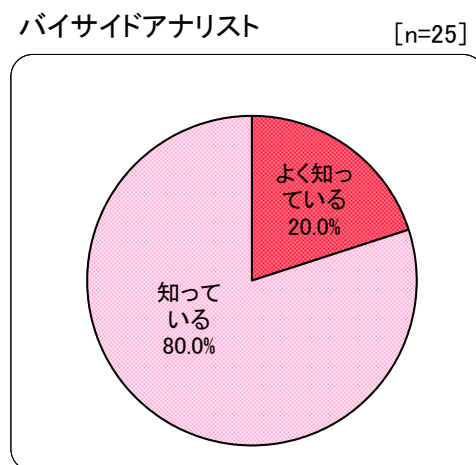
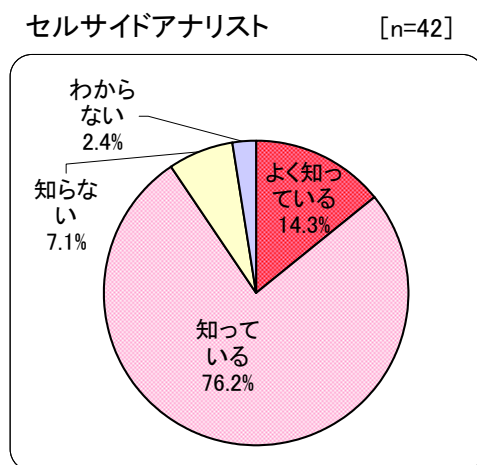
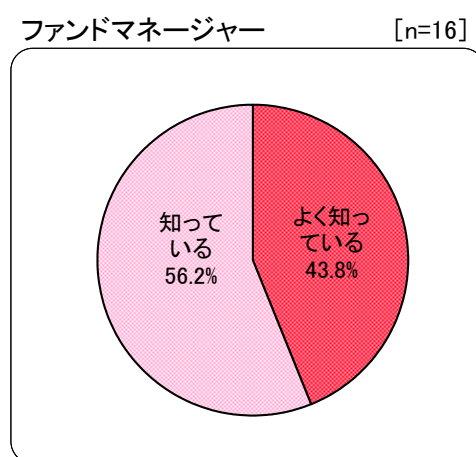
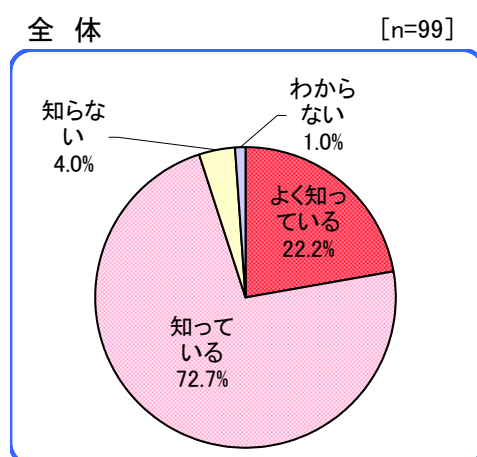
社会的責任投資 (SRI) アンケート

アンケート実施	平成16年12月10日～12月20日
有効回答者数	99 名

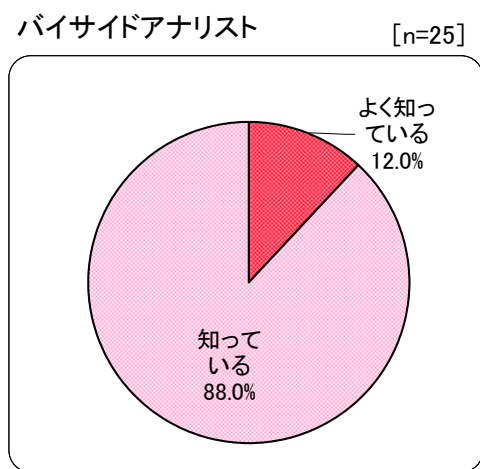
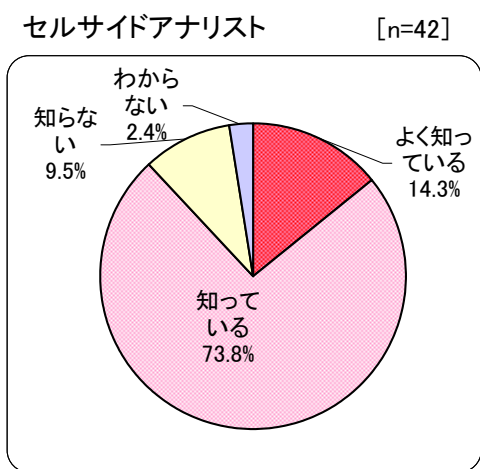
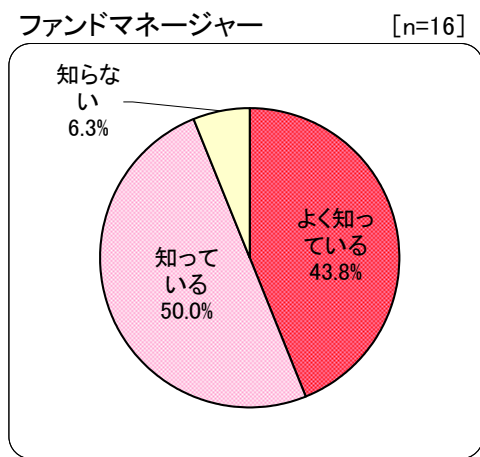
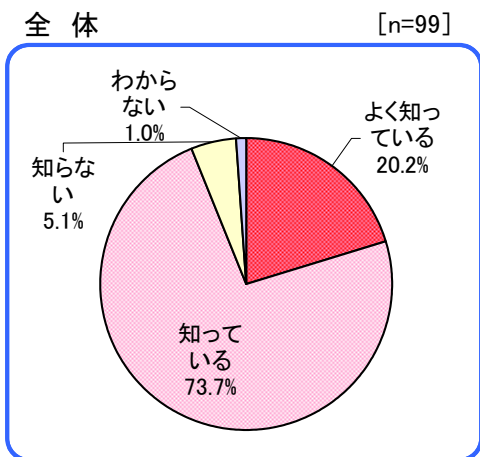
<回答者の職種>



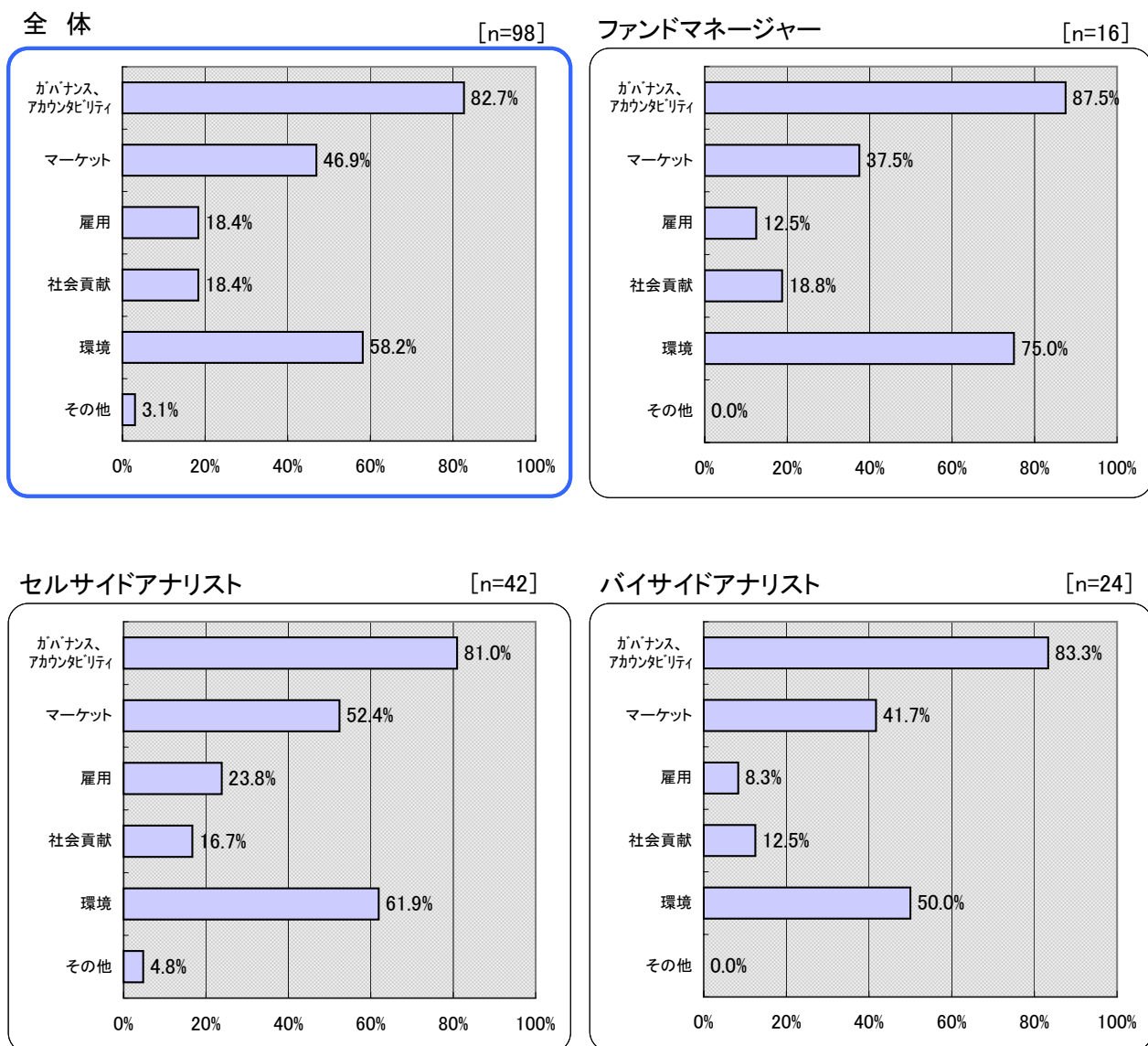
問1 社会的責任投資 (SRI : Socially Responsible Investment) をご存知ですか



問2 企業の社会的責任(CSR: Corporate Social Responsibility)をご存知ですか



問3 SRIの項目の中でどれに関心がありますか(複数回答可)

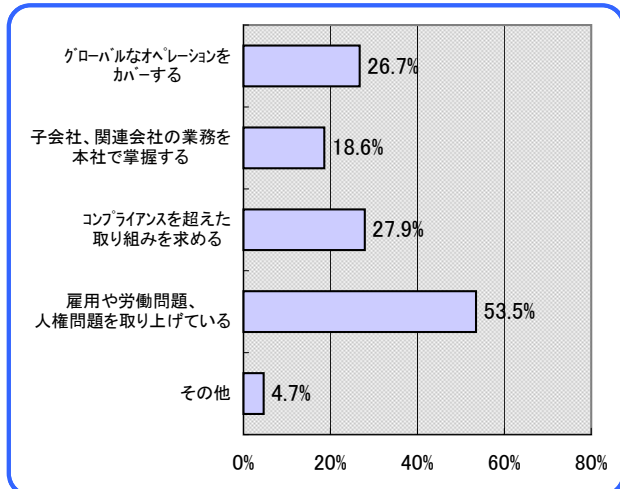


■その他

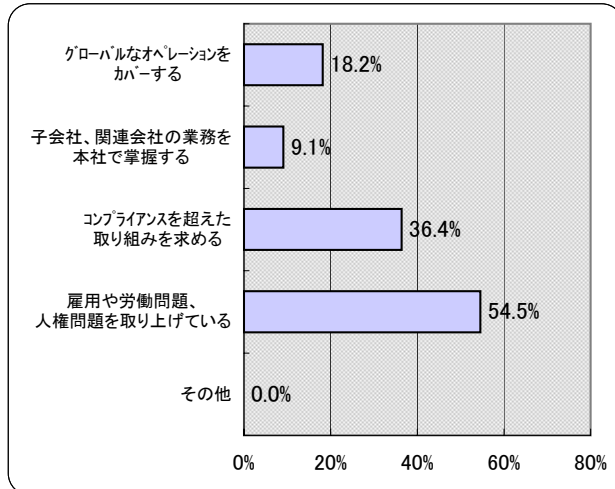
1	あまり関心がない。	日系アナリスト(鉄鋼、非鉄金属、金属製品、鉱業、総合商社、諸製造)
2	ナシ。	日系アナリスト(機械、SPE)
3	その事業そのものの社会的必要性。	日系その他

問4 SRIの考え方で、分かりにくい、なじみにくい項目はどれでしょうか(複数回答可)

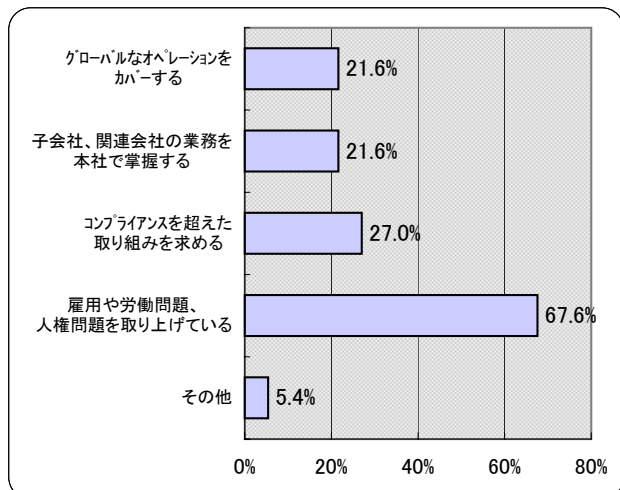
全体 [n=86]



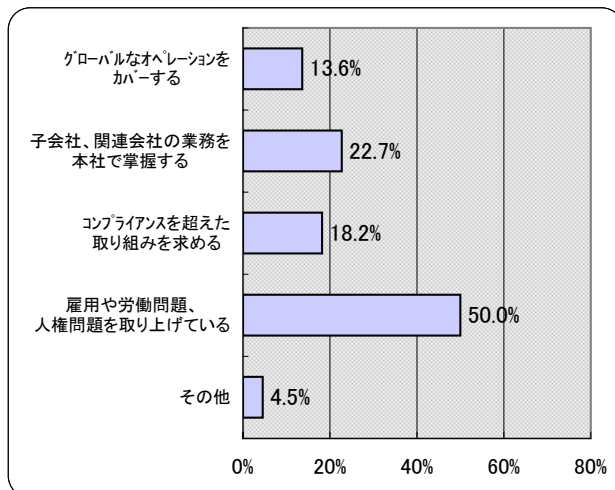
ファンドマネージャー [n=11]



セルサイドアナリスト [n=37]



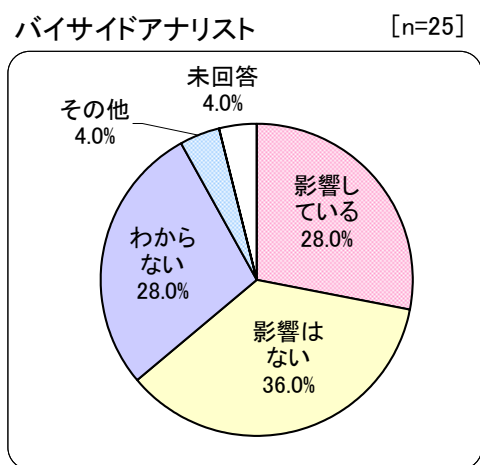
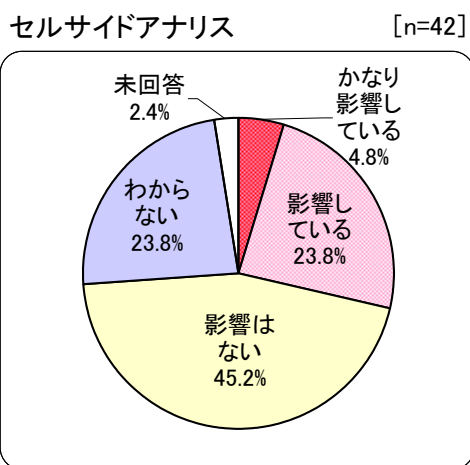
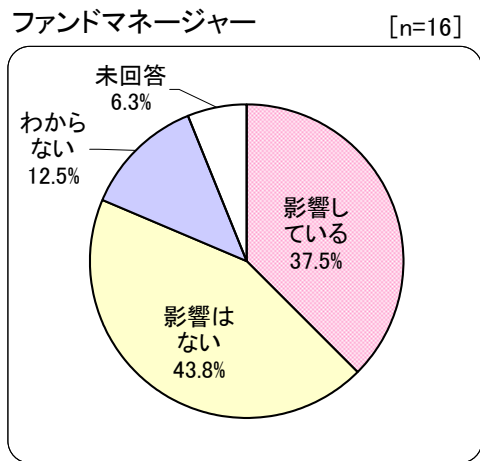
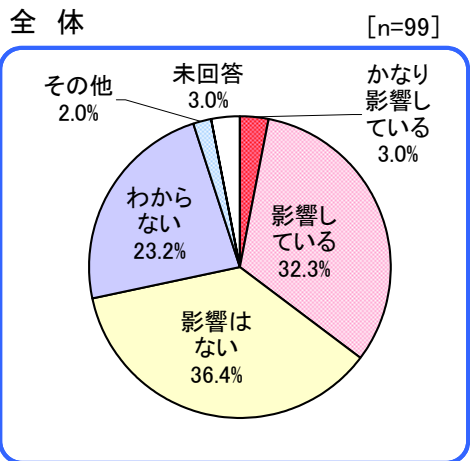
バイサイドアナリスト [n=22]



■その他

1	CSRの判断基準が大企業向けで、中小企業にそぐわない。	日系アナリスト(小型株)
2	全部。	日系アナリスト(機械、SPE)
3	埋没コストとの折り合い(取り組みはコスト先行ケース他の由)	日系その他

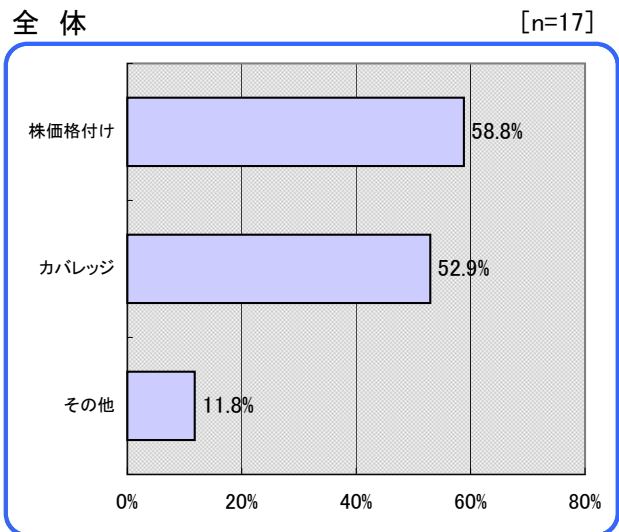
問5 SRIの考え方が、業務に影響を及ぼしていますか



■その他

1	効果の有無を判断するには未だ早い。	日系アナリスト(非耐久消費財)
2	一部影響することがある。	日系その他

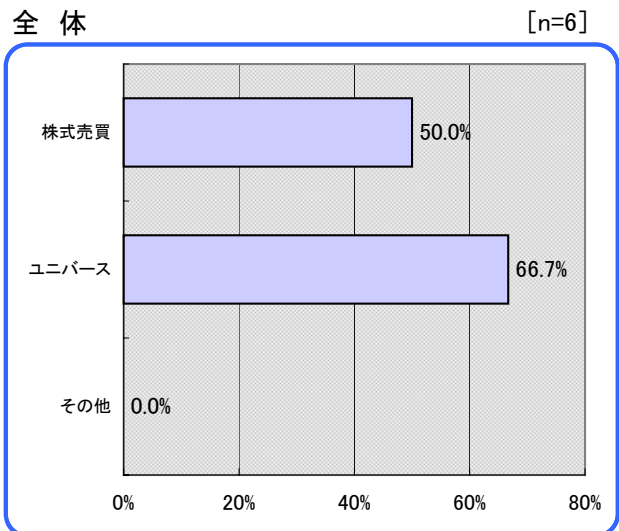
問6 問5で1. 2を選択されたアナリストの方。具体的な影響をお教えてください(複数回答可)



■その他

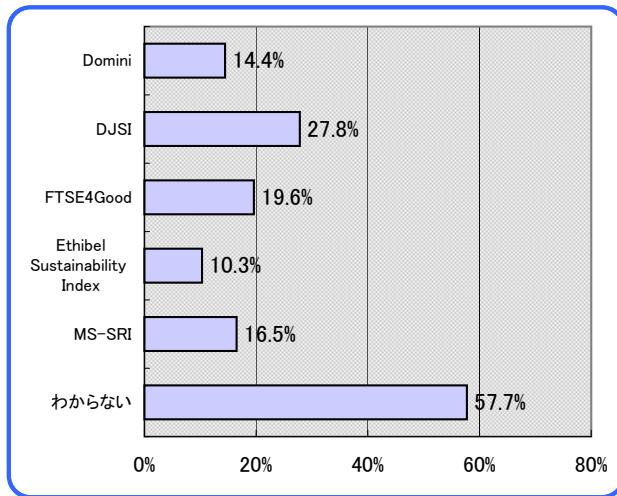
1	著しい法令違反は推奨しないこともある。	日系アナリスト
2	銘柄選択。	日系アナリスト(電機)

問7 問5で1. 2を選択されたファンドマネージャーの方。具体的な影響をお教えてください(複数回答可)

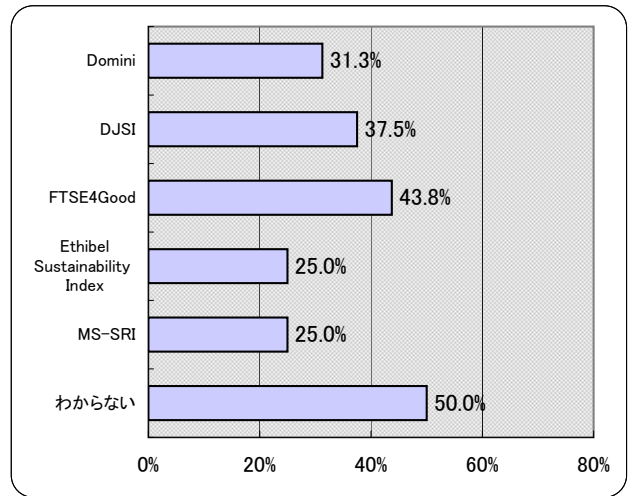


問8 SRIインデックスのうち、どれをご存知ですか(複数回答可)

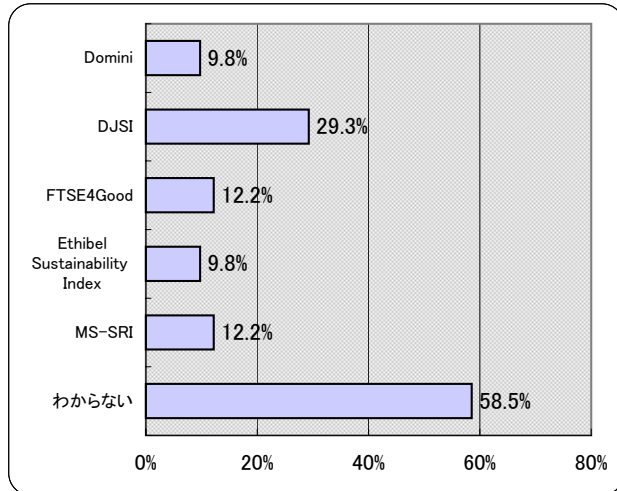
全体 [n=97]



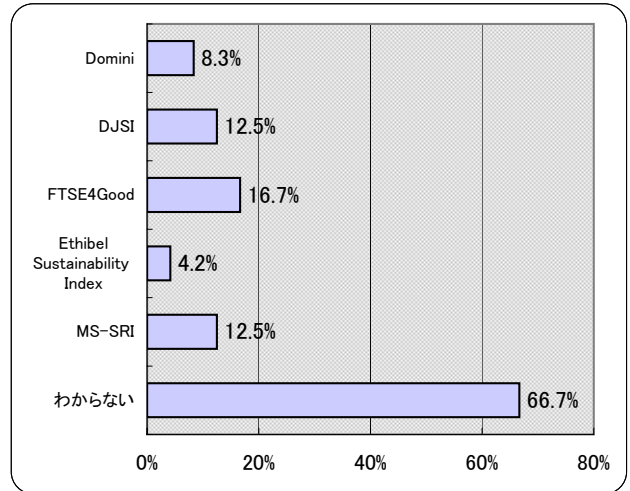
ファンドマネージャー [n=16]



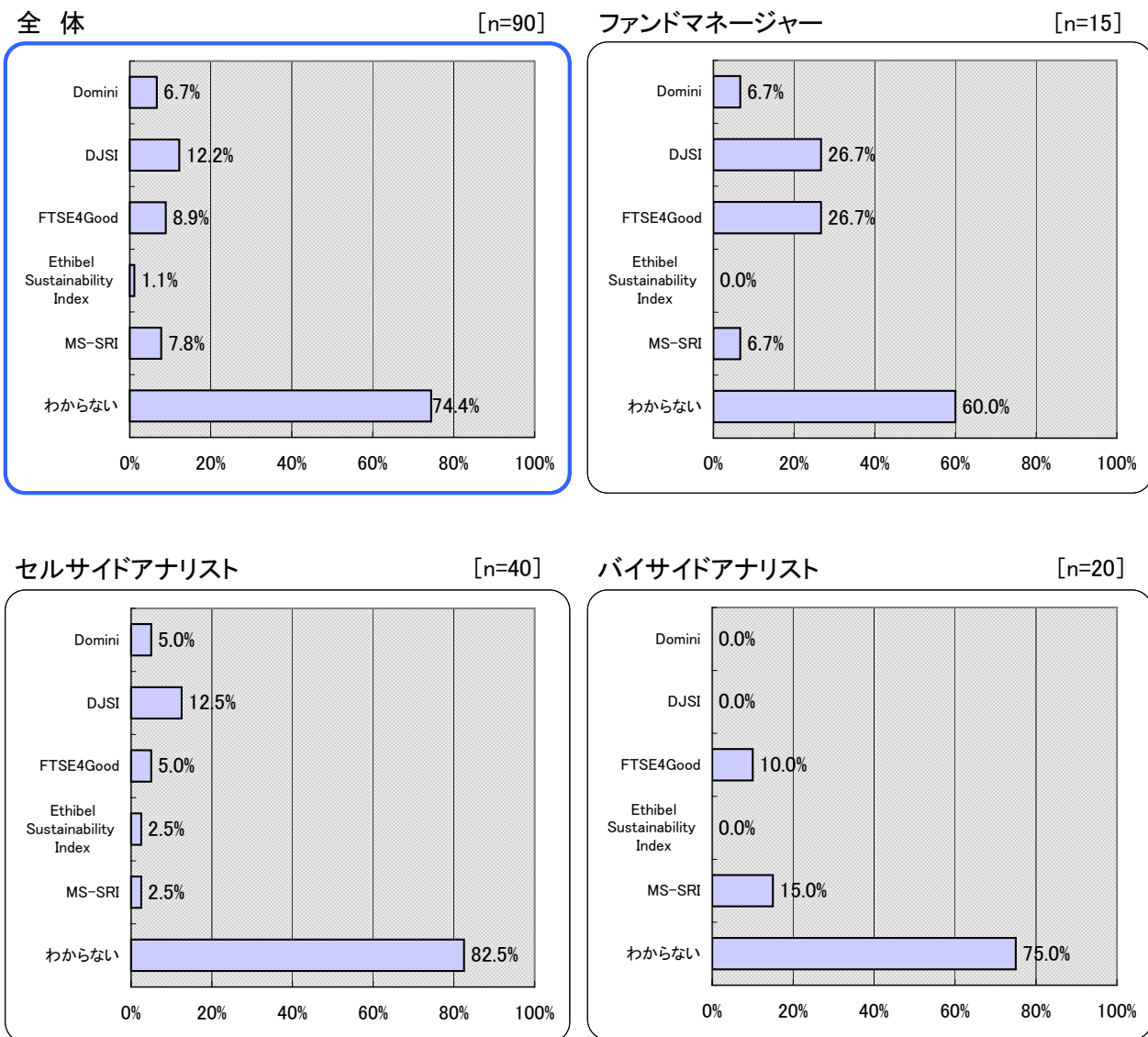
セルサイドアナリスト [n=41]



バイサイドアナリスト [n=24]



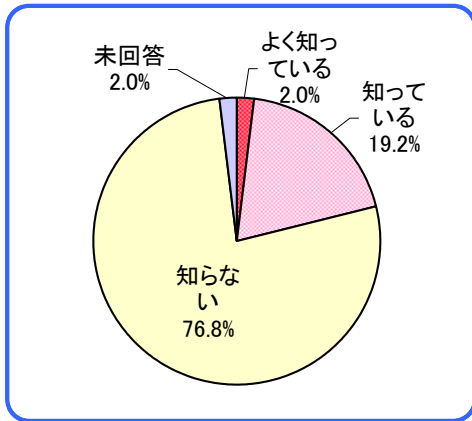
問9 このうち、どのインデックスに注目していますか(複数回答可)



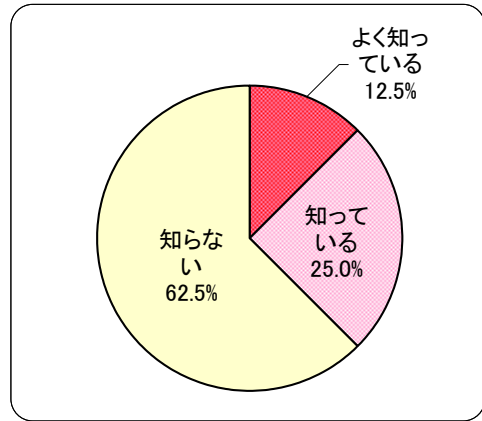
1	取り立てて注目はしていない。	日系アナリスト(自動車、不動産、住宅設備)
2	インデックスの動き自体は意味がない。	日系その他

問10 インデックスの構成銘柄をご存知ですか

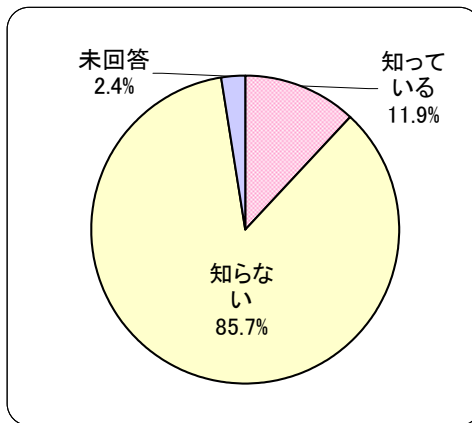
全体 [n=99]



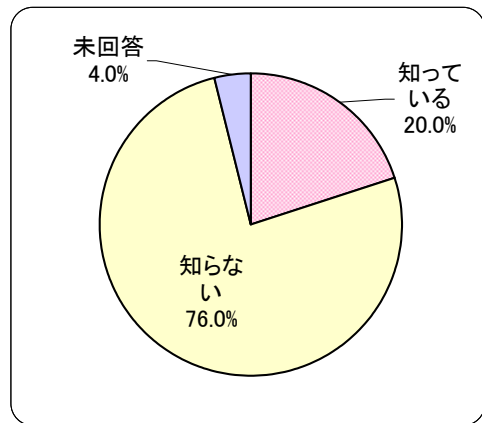
ファンドマネージャー [n=16]



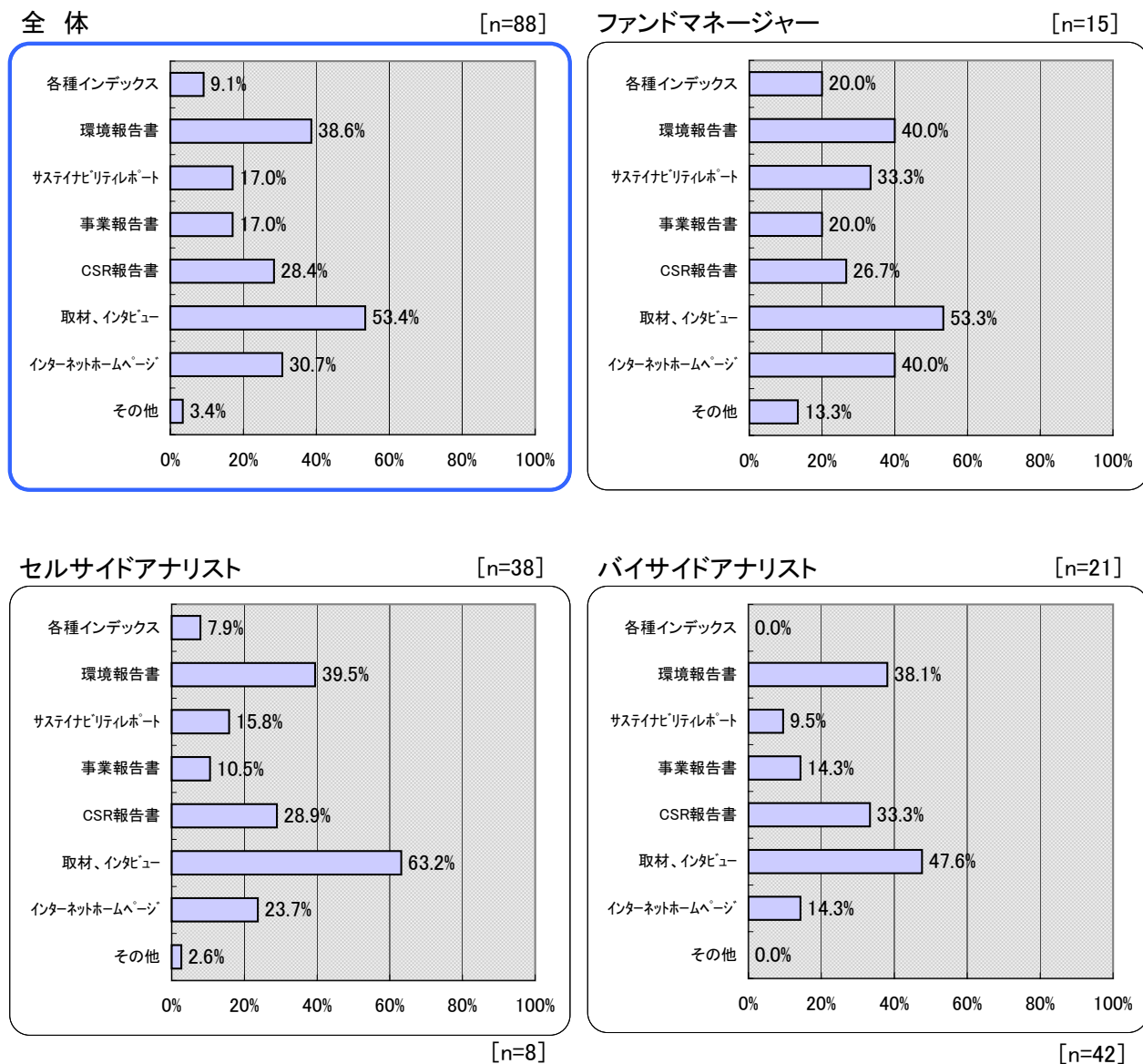
セルサイドアナリス [n=42]



バイサイドアナリスト [n=25]



問11 SRIの判断材料として重視するものはなんですか(複数回答可)

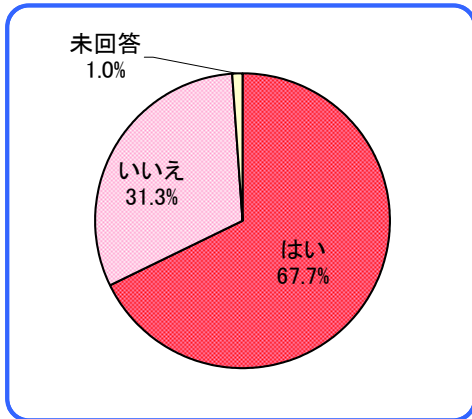


■その他

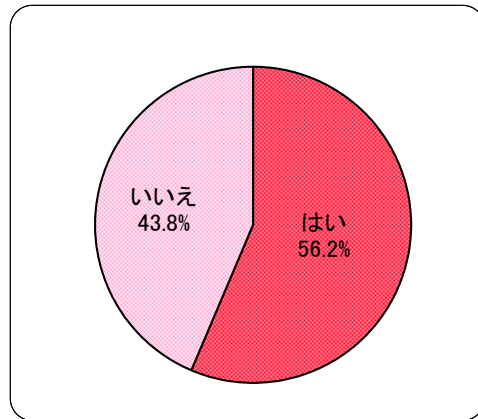
1	重視していない。あたりまえのことであり、これ自体が企業の競争優位性につながるとはいえない。	外資系ファンドマネージャー
2	企業からのIRメール。	外資系ファンドマネージャー
3	ほとんど気にしない。	日系アナリスト(小型株)

問12 今後、日本でSRIは普及すると思いますか

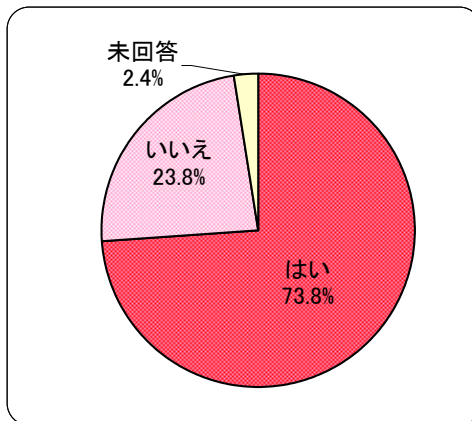
全体 [n=99]



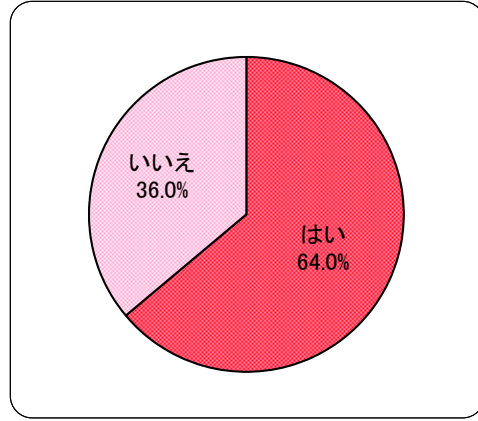
ファンドマネージャー [n=16]



セルサイドアナリスト [n=42]



バイサイドアナリスト [n=25]



■コメント

<普及する>

1	CSRに前向きな企業に対してもっと優遇する制度がなければ無理。	日系ファンドマネージャー
2	年金や海外スポンサーからの圧力が強く普及はすると思うが、SRIの重要性が認識されるとは思えない。個人的には、背景にある哲学は長期的に極めて重要だが、投資が経済的リターンを追及する行為である以上、SRIを積極的に投資指標に取り組みのは時期尚早と考える。	外資系ファンドマネージャー
3	CSRを果たすことでビジネスチャンス・許認可等に好影響する。	日系アナリスト(マネジャー)
4	数値的な分析を行い難い項目であり、アナリストの関心は遅れがちになる。投資家の感心ももっと高まればアナリストも今以上に関心を持たざるを得ないだろう。	日系アナリスト(家電)
5	当局との関係が不文律から明確なものになるにつれてSRIのように目に見えないことからいまままで注目されていなかったものが注目されるのでは。	日系アナリスト(機械、自動車、その他)
6	ただしコンセンサスを得て、それを基にした投資行動が一般化するには時間を要する。	日系アナリスト(情報通信、サービス、運輸)
7	時代の流れから一つのスタンダードを形成していくと思われる。ただ投資に当っては充分条件というよりは必要条件として捉えられるべきでは。	日系アナリスト(電機、精密)
8	時代ニーズとして高まっていくため。	日系アナリスト(全般)
9	全くのゼロからのスタートだったので、相応程度までは(日本人は横並び意識も強いので)。「実利」だけでなく「形式」も重んじる(つまり、見栄っ張りでええ格好しい、という事)という日本人のマインドには、実は結構ハマっているかも??	日系アナリスト(自動車、不動産、住宅設備)
10	普及すると思うが、これによって企業の経営の質が向上するとは考えていない。	外資系アナリスト(エネルギー)
11	観念的には普及するだろうが、残念ながら日本の文化的側面から言っても、当面は表面的なものにとどまる(本質的な改善が見られるにはまだいたらないのでは)ような気がしないでもない。	外資系アナリスト(ヘルスケア)
12	広く普及するには時間がかかるとみている。	日系その他
13	但し、限定的と思われる。	日系その他
14	10年ほど前にはあまり騒がれていなかったIRというものが、いま、かなり広まりつつあることを考えると、SRIも普及が進んでいくのが自然の流れなのだと思います。ただ、投資するに当たってSRIのもつ重要性というものは、将来的には高まってくるかも知れませんが、短期的にはあまり高くないのが実情ではないかと推察しますが、いかがでしょうか。いまのところ、私としては、あまりに酷い噂のあるところは投資対象として、とりあえず避けておこうという程度のスタンスにとどまっています。もちろん、この話題に敏感と思われる欧州を主用地域としている電機メーカー(特に複写機関連)などにとっては重要性が高いのですが、正直、適正な企業間比較が可能となるレベルまで把握し切れていないというのが実情です。まあ、そうした事情から、SRIに注力したファンドなどが存在しているのでしょう。投資家個々人の意識の問題とは思いますが、SRI重視のファンドは別として、一般的なケースで投資判断を行なう当たり、「SRIのもつ重要性がかなり大きなウェイトを占める」、という状況になるには、まだ時間がかかるように思っております。なお、私の認識不足でしたらすみません。	日系その他
15	但し、前提として産・官・学・民 各々の“モラル”維持・向上ありきと考えます。	日系その他
16	アナリスト、ファンドマネージャーが適切に情報を発信することが重要	日系その他

<普及しない>

1	企業としてあたりまえのことを今さらSRIという名をつけて商売ネタにしているだけ。	外資系ファンドマネージャー
2	CSRに前向きな企業に対してもっと優遇する制度がなければ無理	日系ファンドマネージャー
3	年金基金等にとって目先のリターン確保が死活問題でありSRI等と悠長に構える余裕は無い筈。	日系アナリスト(非耐久消費財)
4	宗教や人種等欧米で根付いた文化的な背景が日本には薄く、最終的にはリターンを追及する傾向が日本には強いものとする。残念ながら、SRIはリターンとの関連性は低いと考えている。	日系アナリスト(リサーチディレクター)
5	普及させる必要があると考えているが、認知度が低い。	日系アナリスト(サービス、中小型株)
6	環境ファンドみたいにファンドが勝手に名付けるため、名前先行のような・	日系アナリスト(機械、SPE)
7	本質論が日本の投資家にはない。	日系その他
8	希望としては「普及する」だが、利潤最優先の考えが強い。業績に影響のある不祥事には当然反応するが、業績に影響がない不祥事には目を瞑っているのが実情。啓蒙して普及させる必要のある考え方だとは思う。	日系その他
9	SRIという単独要素では中々普及しない。消費者(ユーザー)に評価され、それが企業収益に結び付くようになって初めて投資評価が生まれてくる。	日系その他